2026年7月改訂

貯法	2～8℃

動物用医薬品

動物用生物学的製剤　猫用

劇薬　要指示医薬品　指定医薬品

承認指令書番号
7動薬第600号
販売開始
2007年5月

Virbac

猫用ビルバゲン®CRP

Virbagen®CRP

猫ウイルス性鼻気管炎・猫カリシウイルス感染症・猫汎白血球減少症混合生ワクチン（シード）

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、弱毒猫カリシウイルス F9 29P株、弱毒猫ウイルス性鼻気管炎ウイルス F2 90P株及び弱毒猫汎白血球減少症ウイルス DSV LR72 29P株をAKD細胞で増殖させて混合し、安定剤を加え、凍結乾燥したのち、減圧下で封じたものである。

乾燥ワクチンは、帯黄灰白色の乾燥物で、添付の溶解用液を加えて振盪すると容易に溶解し、わずかな淡橙色のほぼ透明の均質な液体となる。

溶解用液は、注射用水で、無色透明な液体である。

【成分及び分量】

乾燥ワクチン1バイアル（1頭分）中

主剤　AKD 細胞培養弱毒猫カリシウイルス
F9 29P株（シード）……$10^{4.25}$ $TCID_{50}$ 以上

主剤　AKD 細胞培養弱毒猫ウイルス性鼻気管炎ウイルス
F2 90P株（シード）……$10^{5.0}$ $TCID_{50}$ 以上

主剤　AKD 細胞培養弱毒猫汎白血球減少症ウイルス
DSV LR72 29P株（シード）……$10^{3.0}$ $TCID_{50}$ 以上

安定剤　乳糖 …… 109.2 mg
安定剤　L－グルタミン酸 …… 1.05 mg
安定剤　リン酸二水素カリウム …… 0.556 mg
安定剤　リン酸水素二カリウム …… 2.08 mg
安定剤　ゼラチン …… 6.50 mg
安定剤　水酸化カリウム …… 0.40 mg

溶解用液1バイアル（1mL）中

注射用水 …… 1.0 mL

【効能又は効果】

猫カリシウイルス感染症、猫ウイルス性鼻気管炎及び猫汎白血球減少症の予防。

【用法及び用量】

乾燥ワクチンに添付の溶解用液を加えて溶解し、1mLずつを9週齢以上の猫の皮下又は筋肉内に15～20日間隔で2回注射する。

【使用上の注意】

「基本的事項」

1.守らなければならないこと

（一般的注意）

●本剤は、要指示医薬品であるので獣医師の処方箋・指示により使用すること。

●本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

●本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

（取扱い及び廃棄のための注意）

●外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。●使用期限が過ぎたものは使用しないこと。●本剤には他の薬剤を加えて使用しないこと。●小児の手の届かないところに保管すること。●直射日光、高温及び凍結は品質に影響を与えるので、避けること。●使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。●使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2.使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

●誤って人に注射した場合には、患部の消毒等適切な処置をとること。必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

本ワクチンの成分の特徴

	抗　原		アジュバント	
微生物名	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有 無	種 類
猫カリシウイルス	否	生		
猫ウイルス性鼻気管炎ウイルス	否	生	無	—
猫汎白血球減少症ウイルス	否	生		

本ワクチン株はいずれも人に対する病原性はない。

●開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。●乾燥ワクチン瓶内は真空になっており、破裂する危険性があるので、強い衝撃を与えないこと。

(猫に関する注意)

●注射後2～3日間は安静につとめ、激しい運動、交配、入浴又はシャンプー等は避けること。●副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。●注射後免疫を獲得するまでに3～4週間を要するので、この間は病気をもっていると思われる猫との接触は避けること。

830102O8

「専門的事項」

1.警告

本剤の注射前には猫の健康状態について検査し、次の場合には注射しないこと。

●妊娠中のもの。●重篤な疾病にかかっていることが明らかなもの。

●重篤な心不全及び急性期又は増悪期の腎不全状態にあるもの。

2.対象動物の使用制限等

対象動物が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射適否の判断を慎重に行うこと。

●元気・食欲不振、発熱、下痢又は重度の皮膚疾患など臨床上異常が認められるもの。

●疾病の治療を継続中又は治癒後間がないもの。●明らかな栄養障害があるもの。●以前に本剤又は他のワクチンにより、アナフィラキシー等の異常な副反応を呈したことがあるもの。

●授乳中のもの。●寄生虫に感染しているもの。●1年以内にてんかん様発作を示したもの。

3.重要な基本的注意

●注射後、副反応(アナフィラキシー等)による事故を最小限にとどめるため、しばらくは観察をつづけること。帰宅させる場合には、なるべく安静につとめながら帰宅させ、当日は帰宅後もよく観察するように指導すること。

●本剤と他のワクチンとの同時接種は避けること。また、本剤注射前に他のワクチンを注射している場合には、生ワクチンにあっては1ヵ月以上、不活化ワクチンにあっては1週間以上の間隔をあけること。なお、本剤注射後、他のワクチンを注射する場合には、1ヵ月以上の間隔をあけること。

●移行抗体の高い個体では、ワクチンによる抗体産生が抑制されることがあるので、幼若な猫への注射は移行抗体の消失する時期を考慮すること。

●潜伏感染の状態の猫に注射した場合、その疾病を誘発することがあるので注意すること。

●ワクチン注射後、一過性の猫汎白血球減少症ウイルスの排泄が認められるが、ワクチンウイルスの安全性については確認されている。

4.副反応

●過敏な体質の猫では、アレルギー反応(顔面腫脹(ムーンフェイス)、掻痒、じん麻疹等)又はアナフィラキシー反応(虚脱、貧血、血圧低下、呼吸促拍、呼吸困難、体温低下、流涎、ふるえ、痙攣等)が起こることがある。アナフィラキシー反応は、本剤注射後30分位までの発現が多い。

●注射後、ときに一過性の食欲減退、発熱又は注射部位に硬結を、まれに一過性の元気消失、下痢又は嘔吐等を示すことがある。●副反応が認められた場合は、速やかに獣医師の診察を受けるように指導するとともに、副反応に対して適切な処置を行うこと。

5.相互作用

●免疫抑制剤を用いて治療された猫はワクチンの効果が阻害されることがあるので考慮すること。

6.取扱い上の注意

●注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒した器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く。)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。●ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に扱うこと。●注射器具は1頭ごとに取り替えること。●使用時によく振り混ぜて均一とすること。●本剤の溶解は使用直前に行い、溶解後は速やかに使用すること。●注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。

7.その他の注意

●本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

【包装】 1セット:乾燥ワクチン1頭分×10バイアル
溶解用液1mL×10バイアル

【製品情報お問い合わせ先】
日本ビルバック株式会社 TEL.0120-550-700

製造販売業者:
日本ビルバック株式会社
〒611-0041 京都府宇治市槇島町二十四16番地

添付文書情報はこちら▶

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html)にも報告をお願いします。